

これからのキャリアデザインに向けて ―激変する社会に応じた職業選択のために―

帝京大学理工学部
教授

横山明子

1 社会の変化と大学生の現状

今年の初め、ある4年生が「希望する会社から内々定がもらえるかもしれない」と笑顔を浮かべて訪ねてきたことが印象的である。その数カ月後、構

内にマロニエの赤い花が咲いた頃、COVID-19の影響により私たちの想像を超えて大学の様相が一変した。私の大学では、発出された非常事態宣言により学生は登校禁止になり、授業はすべてオンライン授業に切り替わった。新学期から学生不在の静かな構内である。

このような状況下において、就職活動は、企業説明会が中止になり、オンラインによる説明会と採用面接が始まった。選考を延期し新規採用を中止した企業もある。特に、就活の中断を余儀なくされた4年生で、今後の採用

活動のスケジュールなどの情報公開されない企業に応募を希望する学生は、いつ頃まで新卒を募集するのか、自分が取り残されるのではないかという不安が高い。

また、インターンシップは、キャリア発達を促すような教育的意義から、就職活動の一環としての意味合いが強くなっている。この夏のインターンシップの受け入れの状況が厳しいことを、3年生は深刻に受け止めている。

一方、学生への就職支援の方法も変化している。メールや予約によるオンラインの相談や面接指導、さらに電話による相談が行われている。これまでの学生が不安に思った時に気軽に相談できた相談とは違い、双方向性を確保しているとはいえ、支援側からは学生の態度や状況が把握しにくい。また、積極的に発信できる学生はよいが、発

信が苦手で消極的な学生にとっては、何を相談してよいかわからず、大きなストレスを抱えている。

2 学生の職業選択のあり方

これまで、学生の職業選択は、自己理解と職業理解を深めて、それを実現できそうな就職先を探し計画的に就職活動に臨んでいた。この職業選択の基本的な枠組みは今後も変わらないが、現在のような変化が激しい状況においては、これまで以上に社会経済状況の変化に応じた柔軟な職業選択が必要となる。そのためには、次のことを行うことが今以上に重要である。

- ① 計画的ハプンスタンス理論の考え方を学び、実践する
 - ② 職業的価値観を明確化する
 - ③ 産業分野や職種の知識を広げる
- 第一の計画的ハプンスタンス理論

は、克蘭ボルツ(Krumboltz, J. D.)が21世紀になって提唱した理論である。この理論で示されていることは、社会経済状況の変化が激しく、予測できない出来事が多く起こるようになった状況下では、ハプンスタンス(偶然に起こる出来事や自分が予期していない出来事)があつた時には、思い描いたライフキャリアプランが計画どおりに進まないことも起こる。そのような時には、この予期しない出来事をチャンス(好機)としてとらえ、自分のライフキャリアプランを修正し、将来の目標に向けて積極的に取り組んでいくことにより、新たなチャンスが生まれるというものである。

今までの大学在学中の職業選択は、卒業後の社会状況がある程度見通せる状況下での選択であり、就職先が決定すれば将来に様々な変化は起こると予想しながらもライフキャリアの見通しもある程度描ける状態であつた。しかしながら、今後は、職業を取り巻く環境は私たちの想像以上に変化が大きいことを理解し、克蘭ボルツが言うように、予期しないことが起こっても、卑屈にならずにポジティブに考えて、失敗があつてもそれを次に生かすように柔軟に対応する。そして、何事にも広く好奇心と探究心を持ち、自分の興味のある様々な活動を行い、粘り強くミスを恐れず積極的に取り組んでいくことが大切である。

第二に、職業選択を行う際には、こ

れまで以上に職業的価値観を考えることである。希望する職種や企業を自分なりに決めても、社会経済状況により採用がない場合は今後も多く起こりうるであろう。そのような場合には、「自分にとっての働くことの意義」を熟慮することにより、より幅広い産業分野で希望する職種や企業を探すことができる。

この職業的価値観については、シャイン(Schein, E.H.)のキャリア・アンカーがよく知られているが、これは、どちらかというと学生時代に形成する価値観というよりも、働き始めてからの職業的価値観である。大学生の場合には、金銭的価値を重視する、自分の優れた面を発揮するために自己実現を求める、社会貢献を行いたい、などが代表的であるが、今後は、このキャリア・アンカーとして示されている「専門・職能別」、「全般管理」、「起業家的創造性」、「保障・安定」、「自律・独立」、「奉仕・社会貢献」、「純粋な挑戦」、「ライフスタイル(生活様式)」の8項目なども参考にしながら職業的価値観を考えていくことが大切である。すなわち、自分の職業と働き方について、「なぜ働くのか」、「自分はどのような仕事をすることに意味を感じるのか」などの意義に関して、職業をライフキャリアの中にどう位置づけるのか、職業を通して最も大切にすることは何かを積極的に真剣に考えていくことである。そのことがライフキャリアを創造して

いくことにつながるのである。

さらに、大学生の職種や職業分野の知識はかなり狭いことはこれまでも指摘されている。それは、多くの企業はB to Bの企業であるにもかかわらず、学生はB to Cの大企業を志望することが多いことからわかる。また、これまでジョブ型の採用よりも就社ができればよいと考えている学生もあり、職務内容などを気にしない学生も多かったことによる。

今後は、産業分野の幅広い知識や職種に関する詳しい情報を得ることが大切である。これは単に産業分野や職種の情報を多く収集するのではなく、その産業分野や職種が、社会の中でどのような役割を果たしているのか、将来性はどうか、社会経済の動向とどう関わっているかなど、広く社会動向に関心を持ち、社会経済状況とその産業分野や職種との関係性を知ることである。アメリカ労働省のコンピュータ支援ガイダンス・システム、ONET(The Occupational Information Network)によると、約900～1000種類の職種が示されており、細かい職業情報に掲載されている。日本においても同様なシステムが厚生労働省によって導入され、学生も利用できるようになっている。

以上のような3つのことを知ることがとても重要であることは、次のような具体的な事例からわかる。ある学生は、幼少期から航空機を設計する航空

業界の技術者として働くことが夢であり、その夢の実現のために進学先を選び、その専門を集中的に学んでおり、その夢の実現のために就職活動を始めた。ところが、COVID-19の影響により航空業界は大打撃を受け、大学生の新卒採用が中止された。これはつい数カ月前には予測していなかったことである。この学生は、いよいよ社会に出るという前に希望が断たれたのである。

この学生の場合、いつまでも社会状況に絶望しているのではなく、社会で活躍できる場を見出すような活動を始めることが大切である。まず、大学で学んでいることやインターンシップの経験から、「自分がなぜ航空技術者になりたいのか」という職業的な価値観について熟慮してみる。そして、「自分の専門を生かして社会に貢献したい」ということがわかれば、自分の思いが航空業界以外のどのような業界で実現できるのか、また、希望する職種が他の企業で採用があるのかを探すことによって、いくつかの選択肢を見出し、現実的な選択ができるのである。

この時に、航空業界だけではなく、広く産業分野の知識や職種の詳しい内容について知っていれば、この学生が航空業界以外にも目を向けることができ、自分自身のキャリアの可能性が将来にわたって広がるのである。ただし、この先も航空業界への希望を断念する必要はなく、社会経済状況が好転すれば、この第一志望の業界への道も開けるのである。

3 自分のキャリアをデザインするについて

キャリア教育の中では、「キャリアデザイン」という用語が用いられる。この「デザイン」という用語は、もとも素描(デッサン)という意味があり、このデッサン次第で作品が決まるため、芸術家は繰り返し修正をしながら作品の質を高めていく。この修正の繰り返し「デザイン」である。

学生は職業選択の際に、一度決めたことを柔軟に社会状況に応じて変更することは、葛藤があり不安や抵抗感が強い。それは、これまでの職業選択では、明確な目標を定め、それが実現できるように選択を計画的に行うことを推奨してきたからである。

しかしながら、このような劇的な変化が起こる状況においては、学生は、社会経済状況を踏まえて、常に積極的にキャリアを修正しながら、すなわち「デザイン」していくことこそが、将来にわたって豊かなキャリアを実現できるのである。

今、学生たちは、この困難な状況を様々な工夫をしながら必死に乗り越えていくとしている。今後この状況が早期に収束し、安心して生活できるような社会となることを期待しつつ、その困難を乗り越えた先の学生の成長が楽しみである。